

(別添3)

【竜王町】
校務DX計画

1 校務DX化の現状および成果

(1) クラウド型校務支援システムの整備

当町では、令和4年度に統合型校務支援システムを導入し、進学時や町内転校の場合に学校間でのデータの連携が可能となった。

(2) 校務・端末の1台化

教員が授業で使用する校務用端末を更新し、指導用端末と校務用端末を1台化させた。新たな校務用端末は、持ち運び可能なタブレット型となり、教員の使用する端末の利便性を向上させた。

(3) 各種クラウド型グループウェアの活用

各種クラウド型グループウェアの活用により、「学校間」、「学校と教育委員会間」の文書や資料の送付、データの授受等に活用している。

(4) その他サービスの利用について

令和5年度に保護者用連絡ツールを更新し、欠席等に係る学校への連絡や学校から保護者への手紙等の配信やスクールガードへの連絡ツールとしても一部活用している。

また、令和6年度からはテストの採点を効率化するデジタル採点システムを中学校に本格導入した。

2 校務DX化の課題

1の現状および成果のとおり、校務DXを推進するための基盤整備は概ね終わっているものの、以下の課題が挙げられる。

(1) 業務の在り方の抜本的な見直しや削減

令和5年度の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検においては、FAXを原則廃止している学校がなく、学校から保護者へ発信するお便り・配布物は紙媒体を基本にしているなど、業務のデジタル化を推進できる環境にありながら改められていない。

(2) 各種システムのデータ連携

校務支援システムや保護者用連絡ツール、デジタルドリルなど、データ連携を見据えたメーカー製品を選定しているが、システム連携にあたってのコストメリットが異様に小さいことから、システム連携に踏み切れていない。

3 校務DX化の今後の計画

2の課題に基づき、以下のとおり校務DXに向けた検討を進める。

(1) クラウドサービス活用の拡充

- ・Microsoft Teamsをはじめとするグループウェアを活用し、チャットおよびファイルの共同編集など、コミュニケーションの円滑化を推進する。
- ・令和5年度より、新たな保護者用連絡ツールを導入しており、これを機に学校から保護者へ発信するお便り・配布物のデジタル化を更に進める。

(2) 各種システムのデータ連携に向けた検討

- ・各種校務支援システム等に関する調査や研究を行う。
- ・教育委員会として、今後の教職員の働き方像を描きながら、次期システム等の整備方針の検討を行う。